



発行日 2021年 11月25日 第33号

発行 一般社団法人札幌歯科医師会
口腔医療センター附属歯科診療所

〒064-0807 札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011) 512-7774 FAX (011) 511-2272

E-mail omc-s@dnet.or.jp

URL <https://sapporo-oral-med.jp/>



発行責任者：諸留 裕
編集責任者：中澤 潤

ご 挨拶

口腔医療センター
所長 諸留 裕

所長の諸留でございます。役員改選に伴い、本年7月より再び2年間所長として務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。就任のご挨拶と考へましたが、本年は当センターの大規模改修工事を発行いたしますので、勝手ながらそのご理解、ご協力をお願いに変えさせていただきます。

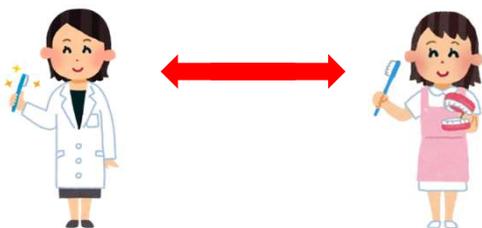
さて、当センターは、昭和48年(1973年)に現会館建設を機に、会館1階にて夜間救急歯科診療を開始しました。次いで、昭和57年(1982年)会館増築の折り、障がい者歯科診療を開始いたしました。これより1階南を夜間救急歯科診療室、同北を障がい者歯科診療室として診療をして参りました。機構的には、企画研修部、摂食嚥下外来と充実してきましたが、診療室自体は、機器の更新、小改修整備をしながら使用して参りました。近年基本的な給排水、電気配線等設備などの不具合が頻発し、老朽化が顕著になり、やむなく大規模改修工事を計画、実行の運びとなりました。この工事に際し札幌市のご協力をいただき、北海道の補助制度を利用しましたことを申し添えます。工事概要ですが、期間は本年7月中旬より翌1月までを予定しています。工事を2期に分け、前期10月中旬までを夜間救急歯科診療室の工事期間とし、それ以降後期を障がい者歯科診療室の工事とします。診療につきましては、夜間救急歯科診療は無休を考えております。従いまして、一部期間(7月中旬より10月中旬まで)は障がい者歯科診療室を利用いたしました。障がい者歯科診療につきましては、10月中旬以降、新しい夜間救急歯科診療室の利用しております。しかしながら、工事に伴う音、振動のために休診期間を設ける予定です。駐車場の変更も含め詳細につきましては、別にご案内致します。工事後の障がい者歯科診療室につきましては、あまり変わりはありません。受け付け、待合室、洗面所の利用勝手を良くする目的の改修を主体とします。しかしながら、コロナ禍中の工事です。人流の管理に努め、院内の消毒等感染予防を徹底いたします。いずれにしましても、大変ご迷惑をおかけいたが、何卒ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

口腔医療センター 総務部長 針谷 宜宗

はじめまして、令和元年7月より口腔医療センター総務部長(担当理事)を担当させていただいております。針谷宜宗(はりやよしむね)と申します。本来であれば、就任時にご挨拶をさせていただく予定でしたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で、「ばるす」の発行ができませんでした。この7月より2期目となりましたが、これから2年間、あらためてよろしくお願いいたします。

口腔医療センターは診療開始より半世紀近くが経ち、施設の老朽化も目立ち始めたことから、この度大規模改修を行うこととなりました。より安全な歯科医療の提供を目指して環境整備を行います。夜間救急診療はその特殊性より、365日休むことができません。改修期間中は障がい者歯科診療室を使用し、診療を継続してまいりました。障がい者診療は、患者さんたちの状況を考えながら、改修後の夜間救急歯科診療室を使用し、診療を継続しております。一時期休診となる期間もあり、皆様にご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



感染防止のためしっかり距離を！

当センターにおける最近の障がい者診療について ～ 新型コロナウイルス感染症対策と摂食嚥下リハビリテーション ～

口腔医療センター 障がい者歯科診療 部長 渡辺 浩史

最近の口腔医療センターでの話題として2題ほど説明させていただきます。

一つは新型コロナウイルス感染症対策と、もう一つは摂食嚥下リハビリテーションに関してです。

●新型コロナウイルス感染対策

現在、全世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。ここ札幌も例外ではなく、最近ではデルタ株等の変異株の影響でその感染は留まるところがありません。しかし、当センターでは開設以来万全の対策を施し、患者さんとそのご家族、介護職員の皆様方に安心して歯科治療を受けることができるように日夜努力してまいりました。

当センターでは新型コロナウイルス感染症が蔓延する前からあらゆる感染症に対して、高度な予防策をすべての患者様に対して実施してきました。その結果、これまで院内感染の発症はみられておりません。

そして、今回新型コロナウイルス感染症対策として、新たな取り組みを追加しております。玄関、待合室への消毒液設置、ドアノブや取っ手、手すりの消毒薬による消毒、定期的な換気、外来患者様の体温測定、全スタッフが毎日体温測定し、健康管理を行い、37.5℃以上の発熱がある時、息苦しい時や倦怠感など、

コロナウイルス感染症を疑う症状がある場合は予約を先延ばししていただくなど、患者様への協力要請を行っています。

さらに来年1月からは改修された新しい診療室になり、院内換気や消毒滅菌に関して、配慮した改修がされ、より一層安心して受診していただけるようになります。

●摂食嚥下リハビリテーション

最近、嚥下障害や誤嚥性肺炎といった言葉を聞いたことがあるかと思います。摂食嚥下障害になると、“うまく飲み込めない”“頻繁にむせる”“誤嚥性肺炎を繰り返す”といった症状があります。

これらは、美味しく食事が出来ないばかりか、重篤な場合は命の危険に陥ることもあります。摂食嚥下障害と言えば、一般的には高齢者の摂食嚥下機能障害の患者さんに対するリハビリテーションと認識されています。しかし、当センターでは、高齢者はもちろん、生まれつき上手に食事が出来ない発達障害の方へのリハビリテーションも行っています。

実際のリハビリテーションですが、先ずはこのような患者さんに食事を行ってもらい、その様子を観察します。また、スクリーニング検査と各種検査を実施します。さらに、より確実な診断や治療方針確立のため、内視鏡検査を行います。その上で嚥下障害の原因を診断し、摂食嚥下障害に対する指導・訓練を行っています。

これらのリハビリテーションは、毎回、指導医(北海道大学大学院歯学研究院ほか)の先生と、札幌歯科医師会会員の担当医の先生が指導を行います。

そこで、当センターの摂食嚥下外来は、開設から24年を迎え、着実に成果を収めてきました。今までむせて上手に食事が出来なかったお子さんが、栄養が十分に摂取できるようになった例が多数あり、親御さんに喜んでいただいています。小児の摂食リハは、早い年齢でリハを行う方がより効果が上がります。毎月 第1・第3土曜日 午後2時から午後5時まで行っていますので、皆様方の周りにこのような患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽に当センターの歯科衛生士さんにお尋ねください。



内視鏡で嚥下の検査を行っているところです。

新型コロナウイルス感染症と口腔ケア

口腔医療センター企画研修部
部長 中澤 潤

新型コロナ感染症が若い人たちにも広がっていることが報道されています。ただ、ここに来てワクチン接種が1日あたり150万件近くと、猛烈なスピードで進む中、重症化するリスクの高い高齢者、有病者が危

険にさらされる可能性は、激減しており、実際に死亡する人の数も減ってきています。

●ワクチン接種は100%な対策ではない

ワクチンは万能の対策ではありません。接種率が100%に達することはないのに加え、ワクチンも100%の効果を発揮するわけではありません。しかし、東京の事例をみますと、医療従事者の新たな感染は極端に減少しており、若年層に比べて重症化するリスクが格段に高い高齢者の感染が減少すれば、少しずつ社会に明るい傾向がみられてくると思われます。ワクチンは感染しても症状が軽く経過して、早期に治癒することを目的としております。つまり、接種を受けていても症状が軽く、あるいは、無症状のまま新型コロナウイルスのキャリアーとなって、他の人に感染させてしまう可能性があります。もし、感染した人がワクチン接種を受けていない場合は、肺炎を発症させてしまう可能性があることを忘れてはいけません。

●口腔ケアと新型コロナウイルス感染の関連性について

持続的、効果的な口腔ケアは、コロナ禍の時代でも大切です。口腔ケアは、新型コロナ禍の時代においても重要な役目を果たしています。

1)誤嚥性肺炎と新型コロナウイルス性肺炎が合併すると、重症化のリスクが高まります。誤嚥性肺炎は、もともとお口の中に存在する細菌が肺に大量に入って発症します。両方の肺炎が同時に発症することは、大変恐ろしいことです

2)口腔ケアは、生活習慣病の悪化を防止します。口腔ケアが滞ると、う蝕や歯周病が進行し、歯の喪失から咀嚼障害に陥ります。その結果、生じる栄養バランスが乱れが生活習慣病の原因となり、ひいては脳・心疾患、糖尿病を誘発するリスクが高まります。このような基礎疾患は、新型コロナウイルス性肺炎の重症化をもたらす可能性があります。

3)口腔ケアは、新型コロナウイルスの感染リスクを低減化します。歯周病菌が産生する酵素が、新型コロナウイルスが体の細胞に侵入する手助けをしていることがわかっています。口腔ケアによって、歯周病菌の数を低減させることで感染リスクを減らすことが可能です。

4)新型コロナウイルス肺炎の劇症化リスクを低減します。お口の中の歯周病菌が産生する毒素の中には、免疫反応を過剰に起こさせるものがあります。この過剰反応を免疫暴走といい、免疫反応なのに、かえって重篤な状態をもたらします。歯周病菌の数を減らすことで、菌の産生する物質による免疫暴走、つまり肺炎の劇症化を防止することになります。

新型コロナ禍の時代にあっても口腔ケアはとても大切です。



編集後記

久しぶりですが「ぱるす」を発刊することができました。今後ともよろしくお願いいたします。

企画研修部